

# 「日・EU協力のための行動計画」に関する総括的評価

平成 21 年 5 月 21 日  
外務省欧州局政策課長  
岡田 隆

## 1. 「行動計画」とは

「ハーグ宣言」(1991 年)から「行動計画」(2001 年)へ

## 2. 「行動計画」の 4 つの重点目標: その達成状況

### (1) 平和と安全の促進

(国連改革、軍備管理、軍縮・不拡散、人権・民主主義、紛争予防・平和構築、地域情勢)

政策協調の広がり・深まり: 東アジア戦略対話、中央アジア戦略対話、人権WG

共同の行動: 北朝鮮人権決議共同提案、スリランカ復興支援会議共同議長就任、タジキスタンにおける国境管理研修

協調的な行動: 西バルカンへの日本の協力、アフリカでの平和構築、アフガニスタン、グルジア、海賊

### (2) 経済・貿易関係の強化

(双方向の貿易・投資、情報・通信技術に関する協力、多角的貿易・経済問題についての協力、国際通貨・金融システムの強化、開発・貧困との闘い)

双方向の貿易・投資

・当局間、民間レベルの対話・協議の深まり: ハイレベル貿易対話の開始(2007 年)、規制改革対話を通じた問題解決、BDRT

・協力の枠組み: 日EU相互承認協定(2002 年)、税関相互支援協定(2008 年)、独占禁止協力協定(2003 年)、各国との社会保障協定、租税条約改定

・日EU投資イニシアティブ(2003 年)、日EU双方向投資促進

IT: IT 技術に関する日・EU協議の実施、日EU・ITU研究協力フォーラム

金融: ハイレベル対話、IMFの資金基盤強化、会計基準同等性評価(2008 年)

開発: 援助政策協議開催(調整中)

### (3) 地球規模の問題及び社会的課題への挑戦

(高齢化社会・雇用、男女共同参画、教育、環境、新たな課題、科学技術、エネルギー・交通、

テロ・国際犯罪)

高齢化社会・雇用：政労使三者対話

環境：環境ハイレベル対話の実施、気候変動(ハイリゲンダム・サミット、洞爺湖サミットでの協力)

新たな課題：知財対話、アジアにおける知財執行共同イニシアティブ(2004年)、日EU行動計画

科学技術：科学技術協力協定仮署名(2009年)、ITER(国際熱核融合実験炉)及びブローダーア

プローチ(国際協力プロジェクト)での協力

エネルギー：日・ユーラトム協定(2006年)、NEDO・ECの協力

テロ・国際犯罪：MLAT交渉開始

#### (4) 人的・文化的交流の促進

(教育、若者、市民交流)

教育：高等教育におけるパイロットプロジェクトの実施・拡充、EUIJ開設

若者：FRIENDS(含む高校生交流の開始)、ワーキングホリデーの拡大、ブルカヌス計画の実施

市民交流：日EU市民交流年(2005年)

### 3. 今日の日・EU関係

「第18回定期首脳協議共同プレスステートメント」

### 4. 日・EU協力を考えるにあたっての留意点

- (1) 日本にとってのEU、EUにとっての日本
- (2) 基本的価値の共有、現実の利害対立、異なる地政学的関心、異なるアプローチ  
継続的対話、特に、戦略的対話の重要性(例、対中武器禁輸問題)
- (3) EUか27カ国か：欧州側の使い分け、EU内の意志決定プロセス  
ある時は27、あるときは一つ、シングル・イシュー・ポリティックス
- (4) 誰を相手にすればよいのか  
議長国？加盟国？委員会？リスボン条約でどう変わるか？
- (5) 日・EU協力の付加価値はどこにあるか
- (6) ガバメント・リーチ、EU内の権限関係
- (7) 基本文書策定の意味

(了)